

ひとり一人の心がけが大切
上水道水神祭

2月13日、高千穂峡の御塩井水源にて、水神祭が行われました。

昨年度までの3年は、新型コロナウイルスにより、町長と上下水道課職員のみで神事を執り行っていました。今年も4年ぶりに水道関係者など38名が参列し開催。水の安全や安定供給を祈願しました。

水は限りある資源です。ひとり一人が節水に心がけ、大切に使用しましょう。



無病息災・家内安全を願う
鬼の目はしらかし

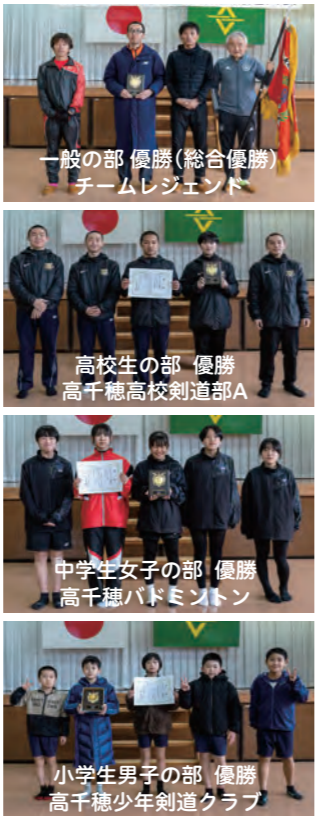
2月4日、荒立神社で鬼の目はしらかし(本組降神会興相安徳会長)が行われました。

青竹の先端を破裂する寸前で熱し、石にたたきつけ「はしらかす(破裂させる)」音で、邪気を払い、無病息災や家内安全を願う伝統行事で、早朝にもかかわらず、町内外から多くの人が訪れました。

参加者らは、大きな破裂音と真っ白な煙が立ち上るたびに拍手と歓声を上げていました。



4年ぶりのタスキリレー
第49回高千穂町駅伝競走大会が開催



2月24日、町スポーツ協会(甲斐教也会長)主催「第49回高千穂町駅伝競走大会」が4年ぶりに開催されました。

大会は、小学生から一般までの5部門に24チームが参加。町総合公園内を周回するコースで、小学生男子5チーム、女子3チームが5区間0.92km。中学生女子1チーム、高校生6チーム、一般9チームのうちオープン参加2チームが5区間8.28kmを優勝目指してタスキをつなぎました。

神話の高千穂
建国まつり

2月11日、第39回神話の高千穂建国まつり(建国まつり実行委員会甲斐勇磨実行委員長)のパレードが4年ぶりに開催されました。

神様コンテストで選ばれた6人の神様をはじめ、企業や園児など19団体が参加。八百万の神々に扮し、高千穂神社から穂觸神社まで約1.4kmをパレード。沖縄県南城市から職員や公式キャラクター「なんじい」も訪れ、沿道に訪れた多くの人の目を楽しませていました。

今回は、町中央体育館駐車場を会場にイベントを開催。ダンスなどのステージパフォーマンスや国引き(綱引き)大会が行われました。また、高千穂牛コロッケやポテトなど19店舗が出店。多くの来場者で賑わいました。



同日、高千穂神社の神楽殿では、高千穂の夜神楽伝承協議会(後藤俊彦会長)が、神楽を受け継ぐ子どもたちの稽古を披露する場として開催している『未来に繋ぐ舞神楽』第2回「高千穂の夜神楽子ども伝承者の集い」が行われ、6カ所の神楽保存会(野方野、立宿、下川登、中畑神社、下野、河内)に所属する小中学生や高千穂高校神楽保存会、豊前神楽山内神楽講(福岡県)が神楽を奉納。計9番の見事な舞を披露しました。

